

2011年度

科目名	漢方医療薬学Ⅰ				
担当教員	谿 忠人				
配当	薬科4			コード	44074
開期	前期	講時	木曜日4限	単位数	2
授業テーマ	【選択】現代医療の中で漢方医学・生薬・漢方処方を応用するための基礎知識を修得する。				
目的と概要	漢方医療薬学Ⅰは漢方薬と漢方医学の基礎知識を講義します。みなさんの到達目標は薬学教育モデル・コアカリキュラム(コアカリ)のC7(3)に記載されています。なお到達目標の「漢方処方に配剤されている生薬」の規格や成分や薬理は天然薬用資源学と関連するので復習しながら講義します。 この講義はコアカリC13「薬の効くプロセス」の自律神経系に作用する薬やC14「薬物治療」と関連します。現代医療の病態生理や西洋薬の薬理と対比して漢方薬・処方の作用や適応症を総合的に理解してください。				
成績評価法	レポート(10点×2回)と試験(80点)の合計点で評価します。試験には文章問題と共用試験(CBT)類題を出題します。なお天然薬用資源学の復習部分も試験範囲です。				
テキスト	日本薬学会(編)／スタンダード薬学シリーズ3「化学系薬学Ⅲ.自然が生み出す薬物」／東京化学同人(3回生の「天然薬用資源学」で使用した教科書と同じ)				
参考書	第十五改正日本薬局方解説書の分冊(医薬品各条:生薬等)／廣川書店				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	1. 漢方医療薬学Ⅰと天然薬用資源学の連携: 漢方医療薬学Ⅰで講義する生薬の規格や成分や薬理は天然薬用資源学で講義しました。これらは今回の試験の出題範囲です。 2. 配布資料と教科書は毎回持参すること: 配布資料に基づき教科書の該当する頁を指示しながら講義します。 3. 重要生薬:各授業で回覧する生薬の局方の規格、指標成分の構造式、生合成経路、薬理作用、適応症などをノートに整理すること。(重要な出題範囲です) 4. 掲示板を見ること: 日程変更や試験の範囲や試験結果などは薬学部棟1階の掲示板で通知します。 5. 試験の方針と準備: 試験は文章問題とCBT類題を出題します。試験は一切の資料の持ち込みは不可です。 6. 到達目標(SBOs)とコアカリ対応番号は『薬学部学習マニュアル』参照してください。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コアカリ対応番号	学習領域
1	講義	漢方薬学の意味 漢方医学の特徴	1. 漢方医療薬学を学ぶ意義を説明できる	独自	知識
			2. 漢方医療と漢方薬の歴史を概説できる	C7(1)	知識
			3. 漢方医学の特徴を概説できる	C7(3)	知識
			4. 日本漢方と中医学を概説できる	独自	知識
2	講義	漢方薬の種類 民間薬 西洋薬	1. 薬剤師が扱う漢方薬	独自	知識
			2. 漢方医療と民間療法の相違を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方薬と西洋薬の利用法の相違を概説できる	C7(3)	知識
3	講義	漢方医学の診察 NBM 漢方医学の診断	1. 漢方医学の診察法(四診)を概説できる	独自	知識
			2. 四診をNBMと関連つけてを概説できる	独自	知識
			3. 漢方医学の診断(証)を概説できる	C7(3)	知識
			4. 証(虚実・寒熱)を概説できる	独自	知識
4	講義	証と処方と生薬 四気と五味 生薬の薬能分類(1)	1. 漢方処方と証の関係を概説できる	C7(3)	知識
			2. 生薬と証の関係を概説できる	C7(3)	知識
			3. 生薬の気味(四気と五味)を概説できる	独自	知識
			4. 薬能に基づいて生薬を分類できる(1)	独自	知識
5	まとめ 講義	漢方医学の特徴	1. 「漢方医学の特徴」のまとめ	C7(3)	知識
6	講義	六病位(病期) 処方・生薬と証 感冒	1. 証(六病位、病期)を概説できる	C7(3)	知識
			2. 処方・生薬と証(病期)を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の適応症(感冒)を説明できる	C7(3)	知識

7	講義	気血水 処方・生薬と証 動悸	1. 証(気血水の失調)を概説できる	C7(3)	知識
			2. 処方・生薬と証(気滞・気逆)を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の適応症(動悸)を説明できる	C7(3)	知識
8	講義	気虚 処方・生薬と証 機能性ディスペプシア	1. 証(気虚)の診断基準を概説できる	C7(3)	知識
			2. 処方・生薬と証(気虚)を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の適応症(機能性胃腸症)を説明できる	C7(3)	知識
9	講義	血証 処方・生薬と証 婦人更年期障害	1. 証(血証)の診断基準を概説できる	C7(3)	知識
			2. 処方・生薬と証(血証)を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の適応症(婦人更年期障害)を説明できる	C7(3)	知識
10	まとめ 講義	証と処方と生薬	1. 「漢方処方と生薬と証、処方と適応症」の まとめ	C7(3)	知識
11	講義	水証 処方・生薬と証 咽喉頭異常感(嘔 気)	1. 証(水証)の診断基準を概説できる	C7(3)	知識
			2. 処方・生薬と証(水証)を概説できる	C7(3)	知識
			3. 漢方処方の適応症(嘔気)を説明できる	C7(3)	知識
12	講義	処方分類(1)	1. 処方と適応症と生薬を概説できる(1)	C7(3)	知識
			2. 配剤生薬に基づいて処方を分類できる	独自	知識
13	講義	処方分類(2) 生薬の薬能分類 (2)	1. 処方と適応症と生薬を概説できる(2)	C7(3)	知識
			2. 薬能に基づいて処方を分類できる	独自	知識
			3. 薬能に基づいて生薬を分類できる(2)	独自	知識
14	講義	漢方製剤の添付文 書 使用上の注意	1. 添付文書の「使用上の注意」を概説できる	C7(3)	知識
			2. 現代医療の中の漢方医療の特徴を概説できる	C7(3)	知識
15	総括 講義	漢方薬と漢方医学 の基礎(総括)	1. 「現代医療の中の生薬と漢方薬」の総括	C7(3)	知識
授業方法					
一般 目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
C7(1) C7(3)	講義	講義室	1	配付資料	90分×15回